

うちの スゴイヒト

宇部出身。山口大学医学部保健学科看護学卒業後、8ヶ月間看護師として勤務していたが医師を目指して2016年に福岡大学医学部医学科を卒業。医学を学び直し、消化器内科医に転身した。10～30代に多い炎症性腸疾患の治療を得意とする。医師としては今年9年目で、4月から徳山病院に着任して地域の人への援助に努めている。

医療の知識を 地域へ

医療法人周友会 徳山病院
消化器内科医 吉富晋悟さん



病院概要 医療法人周友会 徳山病院

1952年に徳山曹達健康保険組合により「徳山病院」として発足。医学・医療の発展や社会が求める医療が変化する中で、2012年からは医療法人「周友会」が運営し、2011年からケアミックス型の病棟体制へ、2020年から地域包括ケア病棟体制に移行して地域の人を幅広く受け入れる体制を整備している。

「私たちは、患者さん、ご家族を援助します。」の病院理念のもと、患者へのきめ細かい配慮や医療提供体制の更なる充実を目指している。



知識不足を実感して



看護師である姉の影響で自分も看護の道に進みました。実際に病院の中で看護師として働く中、目の前で医師が働いている姿を見て自分はまだまだ知識が足りないと痛感。医学の知識を増やして患者に還元できるようになりたいと医師を目指し、浪人期間を経て福岡大学医学部医学科で医者になるための医学を学びました。

指導者に感銘を受けて 消化器内科医へ



医師になってすぐは様々な診療科をまわります。そこで出会った消化器内科の指導者が人間的にも、医者として内視鏡技術や論文などにも優れていたため自分もこんな医師になりたいと憧れを持ち、消化器内科医を選択しました。

実際に消化器内科医になり、自分の腕で命を助けることができた時には特にやりがいを感じています。

母を看取るため



徳山病院着任前は病状が不安定かつ緊急性を要する患者さんの医療を担う救急病院で働いていました。私の母が認知症末期で徳山病院に入院しているので主治医として看取りたいと希望していたこと、患者さん第一の理事長の考えに共感したことから転職。

今では患者さんの話をしっかり聞いて一人ひとりに寄り添った対応ができるようになりました。先生方と私の理念がマッチして非常に働きやすいと感じています。

欠かさず自分で 振り返りを



診療では家族や患者さんが何を求めて徳山病院に来ているのか考えることを大事にしてコミュニケーションをとるようにしていますが、医療現場ではどうしても話を聞けない状況もあります。日々、自分で振り返り、コミュニケーションが不十分だったと感じた時には次回の対話を増やすなど振り返りと改善を心がけています。

培った知識を地域へ



消化器内科の中でも内視鏡治療が得意で、県には対応できる医師の少ない潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患の診断や治療にも力を入れています。消化器内科医として培った知識を周南地区の患者さんへ還元し、ご家族にも満足いただけるような援助や皆さんの健康に役立つ援助を心がけていきます。

吉富さんからのMessage

私は宇部高校に通っていました。高校生の頃から医者になりたいという気持ちは根底にあったのですが、進学校に行けばなれるものだとなんとなく思って部活動や友達との遊びに重きを置いていました。しかしいざセンター試験を受けるとなると足りないと気づきました。

“今をどう過ごしたらいいか”を考え、やりたいことをやって欲しいです。

